

現場に立って、祈り、考えたい

統括主任 飯塚拓也

「もっと早くお訪ねしなければならなかった」という反省と、「良い出会いが与えられた」という感謝をもって、16日～17日の、茨城・栃木・群馬地区での拡大委員会を終えました。改めて、「被災地、そして、被災教会に伺って、そこで感じ・考える」ことの大事さを思います。

3地区での話し合いでは、それぞれに違う部分にウエイトがおかれました。地区ごとに震災被災の課題には違いもあるということです。茨城では教団の支援が話し合いの中心となり、栃木地区では放射能汚染問題、群馬地区では教団の募金を中心となりました。

①関東教区内の被災教会の会堂・牧師館の再建、②放射能汚染問題への取り組み、③支援募金の推進。この3点が、これからの関東教区の取り組みの課題となると思います。もちろん、アジア学院や幼稚園・保育園等の教会関連施設の再建も含まれます。

奇しくも、栃木地区と群馬地区との話し合いの日が、「阪神淡路大震災」の発生した日1月17日でした。「阪神淡路大震災」発生から17年の日に、支援委員会は被災地区に伺い、被災教会の現状を聞かせていただいたのです。「阪神淡路大震災」被災対応から、そして、「新潟県中越地震」「新潟県中越沖地震」「能登半島地震」から、私たちは何を学んだのかと思います。

「被災支援のフロントは、被災地である」ではないでしょうか。

「どのような支援が必要で、どのように対応することが的確なのか」は、被災地に立って考えることなのだと思えます。「まず、出会わなくては」と、今回も教えられました。

私たち支援委員会の目標は、「関東教区内の被災教会、アジア学院、関連施設の再建のなること」です。教団の支援案に対しては今後検討を重ねていかななくてはなりません、どのような方法を辿ろうとも、「教区内の被災の再建がなること」を目標に取り組んでいきます。

その意味で、12月21日に教区よりお配りしました「教会建物等復旧工事支援申請並びに信徒宅被災の把握のご案内」の提出にご協力ください。『関東教区内の支援の必要額』をしっかりと把握し、その実現のために力を尽くしたいと考えています。

被災された教会、信徒の方々、アジア学院、関連施設の皆さまに、神さまのお守りを祈ります。

群馬地区での拡大委員会

小池正造（支援委員）

17日午後3時30分より甘楽教会を会場に、吾妻、伊勢崎、桐生東部、甘楽、高崎、松井田、前橋中部の7教会の出席を得て、拡大委員会が開催されました。

群馬地区は、震源地より離れており、一般的には被害が軽微であったと思われがちですが、大船渡市や郡山市と同じ震度6弱を経験しています。伝統ある会堂の幾つかでは大きな被害を受けています。会場となった甘楽教会、伊勢崎教会も、その中の一つです。

出席された各教会の被災状況が報告された後に、意見交換がなされました。話題の中心の一つは、教団募金活動の進捗状況です。12月に発行された支援ニュースまでほとんど情報が届かなかったため、教会の中での献金意欲が進まないという意見が出されました。また、集められた募金の配分に関しても、被災教会に情報が届けられていないため、資金計画が進まず、なかなか補修作業が進まない現実があるとのこと。結果、教団募金に頼らず、最低限の修繕に留まる決断を余儀なくされた。これに対して委員より、経済的体力の温存も必要だが、致命的な会堂の修繕なくして、やれる所のみというのはよい結果を生まない。また、支援は経済的な面のみでなく、様々な知恵や祈りにまで及ぶのではないかとの応答がありました。

茨城地区での拡大委員会

小林祥人（支援委員・社会部委員長）

「被災教会の生の声を聞かせていただく」こと—これが被災支援委員会拡大委員会の大切にしようとしたことです。それは「それぞれの痛みと出会うこと」にほかなりません。現場を知らずに机上の議論やパソコンの事務処理のみに終始するのでは本当の支援はできないということでしょう。

茨城地区では1月16日に水戸中央教会を会場として開かれました。震災前の水戸中央教会をご存知の方は、かつて牧師館のあった場所が更地となっていることに驚かれたでしょう。茨城県北地方の被害の大きさと、そこから既に10ヶ月が経過していることを思われます。この日は水戸中央の他、水戸、水戸自由が丘、日立、石岡、土浦、竜ヶ崎、鹿島などの諸教会から教師・信徒の方々が集まってくださいました。

復興への計画が進みゆく中で、「配分要綱（案）」によれば、教団が考えている「支援」は、教会再建のための満額に届くものではなく、それが被災教会の抱える現実との間にかなりの隔たりがあることを認めざるをえませんでした。それについて被災教会からは少なからぬ不安の声もあるという印象を受けました。教会の「復興」とは何なのでしょう？そこには被災教会の再建ということがあるのではないのでしょうか。痛みに出会った私たちは、いまや「痛みを知る者」のはずです。それぞれの被災教会・伝道所の痛みを重く感じながら「本当の支援」というものについて考えてみたいと、気持ちを新たにしました。



栃木地区での拡大委員会

熊江秀一（支援委員・宣教部委員長）

栃木地区での拡大委員会が1月17日（火）午前10時より12時まで宇都宮教会を会場に行われました。4つの教会とアジア学院、委員会の25名の出席でした。

教団と関東教区の支援の現状報告・説明の後、地区教会の今が伝えられました。会堂建て替えを決定した中、早く、しかしじっくりと話し合っ建築に取り組み、教会の使命に仕えたいと話された宇都宮教会。建物修理に取り組みつつ、教団募金のために積極的に取り組んでおられる宇都宮上町教会と四條町教会。修理完了に感謝しつつも放射能汚染の問題に直面しておられる西那須野教会。次年度30名の学生受け入れの準備をしつつ、3期の復興工事計画を立て、またベクレルセンターを立ち上げて、地域と共に歩んでおられるアジア学院の現状を共有しました。



全体協議では、教団の支援金配分と共に、放射能汚染問題について話し合われ、アジア学院や諸教会の除染等の取り組みが紹介されました。情報提供等、教区の課題であることが共有されました。また教区で被災地ボランティアの募集をしてほしいとの意見、会堂共済の見舞金、牧師館や関連施設に対する公的資金の補助についての紹介がありました。栃木地区内も余震が続いています（直後にも震度3の地震）。

すべての被災教会とアジア学院の復興が成る時まで教区が共に歩み続けること確認し、終了しました。